インターバンクの声（2017 年 10 月 6 日）

東京市場での取引もまだ続いていたロンドン市場早朝からのドル円の下落は、ドイツ産業連盟が英国に展開している独企業に対して「英国の強硬な EU 離脱に備えるべき」と注意を促し、英経済への先行き懸念が再び高まったことが大きく影響した。
英ポンドが急に下げ足を速めたことで英ポンド円が下落、ドルも対円で下落したため、ニューヨーク市場が始まる頃には 112 円 40 銭台までドル売りが進んだ。
ただ、今週のドル円は 112 円台中盤を割り込むとドル買いになるとの意識が強く、ニューヨーク市場の序盤に発表された 8 月の米貿易収支と先月最終週の失業保険申請件数も市場予想より良好だったことから、昼過ぎには 112 円台後半までドルの買い戻しが進んだ。
それ以降の午後の市場では、主要通貨がいずれも静かな値動きになっており、早くも米雇用統計の発表待ちの様相だ。今週発表されている米経済指標は良好な結果が続いているが、雇用統計が強い内容となっても、112 円台後半の水準が起点では 114 円台は遠く感じてしまう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社
お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。
本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。